

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第4号 (2007・06)  
事務局川西地区自主防災会

## 緊急地震速報の一般向け提供がこの秋スタートします！

高松地方气象台次長 岡本利次

香川県の皆さん、緊急地震速報をご存知ですか。この情報は、地震による強い揺れを事前にお知らせすることを目指す新しい情報です。気象庁は、この秋、この緊急地震速報を一般向けに提供を開始する予定です。この情報について質問形式で紹介します。

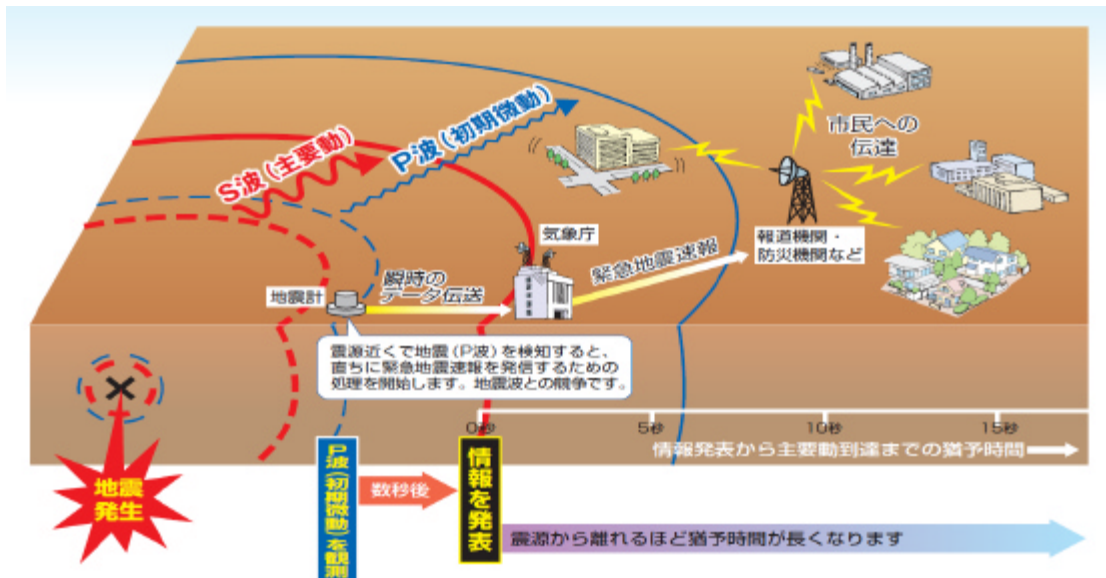
(緊急地震速報とはどんな情報ですか。)

地震による強い揺れが始まる数秒～数十秒前に、強い揺れがくることをお知らせするものです。

(緊急地震速報の原理を説明してください。)

図1を見てください。地震が発生すると初期微動と呼ばれる揺れの小さなP波と主要動と呼ばれる揺れの大きいS波の2つの波が地中を伝わっていきます。P波の方がS波より速く伝わるという性質があります。緊急地震速報は、地震の発生直後に、震源に近い地震計でS波より早く伝わってくるP波をとらえ、震源の位置や地震の規模(マグニチュード)、想定される揺れの強さ(震度)を自動計算し、大きな揺れ(S波)が到達する前に、情報として素早く利用者に伝えるものです。

(図1)



(一般向け緊急地震速報が提供されるのはどんな地震が発生した時ですか。)

一般向け緊急地震速報は、最大震度が5弱以上と推定された地震が発生した場合に発表されます。

(どのような内容が発表されるのですか。)

- ・地震の発生時刻とその震央
- ・震度4以上の強い揺れの地域の名前

です。猶予時間が短いことから、「緊急地震速報・・・で地震。強い揺れの地域は、×××」という表現になるかと思われます。

(緊急地震速報の技術的な限界は。)

- ・緊急地震速報を発表してから強い揺れが始まるまでの時間が数秒から数十秒と短い。
- ・震源に近い観測点で地震波を観測してから、震源、震度を自動計算して発表されることから、震源に近い所では、緊急地震速報が強い揺れの到達に間に合わない場合がある。
- ・地震の規模や到達時間の予測にずれがある。

ことです。利用にあたっては、この限界をよく理解しておくことが肝要です。

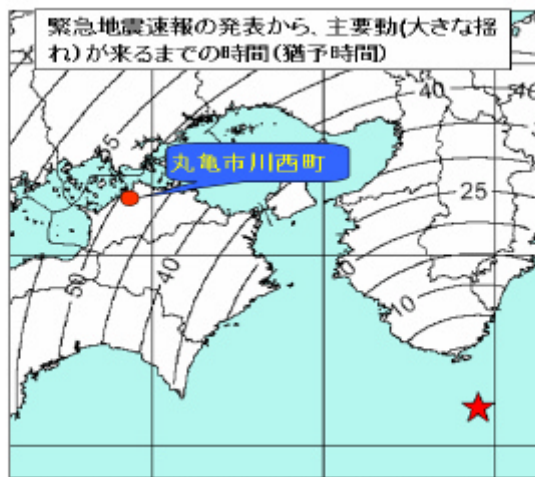
(緊急地震速報提供から主要動到達までの猶予時間は数秒から数十秒とのことですが、たとえば、想定されている東南海・南海地震の場合の猶予時間はどのくらいですか。)

図2を見てください。想定されている東南海・南海地震が発生し(赤い星印が震央です)、地震波を観測してから(この場合、潮岬が一番近い観測所です)緊急地震速報の発表までに4秒かかった場合の猶予時間の分布です。丸亀市では猶予時間は45秒から50秒です。震源が四国地方に近くなればこの猶予時間は短くなります。

(図2)  
 (緊急地震速報は一般住民にはどのように提供されるのですか。)  
 テレビ、ラジオ、市町村防災行政無線の放送による提供になるかと思われます。また、携帯電話による提供は技術基盤開発が始まったところだと聞いています。

以上、緊急地震速報について皆様が知っておきたいなあと思われる事柄について紹介いたしました。この緊急地震速報は、破壊をもたらし、身に危険をもたらす強い揺れがくることを前もって知らせてくれる画期的な情報です。一昔前までは考えられなかったものです。しかしながら、猶予時間が短いことから、緊急地震速報の発表を知った場合、周囲の状況に応じてまず身の安全を確保することが肝要です。それには、どのように行動すればよいかを前もって考えておく、あるいは対策を立てておくことが大切です。その手引きとなる緊急地震速報「利用の心得」が気象庁から示されています。気象庁から出されている緊急地震速報「利用の心得」をもとに、自主防災会の一人一人の方が、あるいは、自主防災会として、緊急地震速報の発表を知った場合、どのような行動をとればよいか、対策を立てておけばよいかということについて、ぜひ、取り組んでいただき、身の安全の確保、災害の軽減に繋げていただきたいと思います。

なお、緊急地震速報については、気象庁のホームページに詳しく紹介されています。  
<http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/EEW/kaisetsu/index.html>。



※震央(★)を北緯33.2度、東経135.9度、深さ10Km

## 2. わが街の紹介 (丸亀市土器町コミュニティ) わが町の自主防

土器川における勇壮な水浴び神輿



讃岐富士を望みながらの秋の例大祭



町民運動会に土嚢作り



丸亀市土器町は、東は青ノ山山頂から、西は丸亀城南部にあ  
 る聖池まで約2.4 Km。南は双子山から北は瀬戸内の海岸まで  
 約4.3 Kmの間で土器川が南北に縦断し、東西に雁行形をした  
 地域であります。自主防災については、平成17年度「住みた  
 くなるまち土器」の総会において、前年(平成16年)の台風  
 被害、また近い将来発生すると予測されている南海地震に備  
 えるために、わが町でも防災対策が重要であることが認識され、  
 コミュニティで自主防災を考えていこうと発表されました。自  
 主防災の組織化に当たり、地域全体の人口が12,664名、5,265  
 世帯あることから一つの自主防災組織としては大きすぎると  
 思われるため、まずは単位自治会で組織を立ち上げてもらい、  
 それを総めていくのがコミュニティ本部の役割と考え、単位自  
 治会に働きかけ、また防災に関する講演会等も催してきたが今  
 のところ、54在る単位自治会で組織を立ち上げた自治会は7  
 自治会にとどまっている。このまま単位自治会の立ち上がり  
 を待っているだけでは、進展をみないことから、コミュニティ本  
 部において組織化を進めることとし、今年(平成19年3月)  
 に「住みたくなるまち土器」自主防災会規定、組織図および担  
 当者名簿までを作成したところであります。2年間の活動実績  
 としては自主防災組織に関する講演会2回、町民運動会におい  
 て土嚢づくり体験、ふるさと弥生まつり(コミュニティ祭り)  
 における起震車による地震体験、また丸亀市防災対策室による  
 消化器訓練の体験等を行ってきました。しかし土器コミュニ  
 ティの自主防災については、まだまだこれからというのが現状で  
 す。

事務局連絡先: 〒763-0092 丸亀市川西町南4 2 8 川西コミュニティセンター内かがわ自主ぼう連絡協議会  
 事務局 (川西地区自主防災会) 0877-28-5519 e-mail:josin-c@mail.netwave.or.jp